

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ禍の住宅困窮者支援事業
資金分配団体名:	公益財団法人パブリックリソース財団
実行団体名:	社会福祉法人 共生福祉会
実施時期:	2021年11月～2022年2月
事業対象地域:	愛知県
事業対象者:	障害者 高齢者 生活保護受給者 低所得者 外国人 住宅確保要配慮者

Version 3.2

日付: 2022年3月14日

I. 事業概要

事業実施概要	名古屋市内の住宅地にある元社宅1棟16戸を購入し、支援付き住宅として提供する。そこを一定期間後に無料低額宿泊所として名古屋市に日常生活支援住居の登録申請し、今後支援スタッフの件費を安定的に確保していき、入居者への生活課題に応じた生活支援や就労支援を行っていく。そのために、当会の生活困窮者相談支援センターや障害者基幹相談支援センター、障害者就業・生活支援センター、ソーネ居住支援センターの生活を支える保証事業と連携していく。当法人がこれまで進めてきた3件のサブリース住宅を使った居住支援活動と合わせて支援付き住宅システム提供体制を確立する。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	「これから改修工事に入ろうとした11月末の段階で隣の地域重鎮の方から『住まいに困っている人の住宅などんでもない』と反対の声がぶつけられ、高級住宅街である地域住民の方々の不安がおおられていることがわかる。今後の地域連携のために地域住民への丁寧な説明と計画の練直しが必要となる。この事業の対象者として、この地域が大学や専門学校が多い文教地区のためコロナ禍で生活苦で学業が続けることが難しくなっている現状をふまえ、住まいに困っている学生を応援する学生寮を構築し、地域の賛同を得る形で進めることとする」こととなった。これによって当初からの住まいに困っている人一般を対象とするのではなく対象者がしぼられ計画の練直しが進められた。そのため改修工事が2月までずれ込み、入居者の確保は今後の課題となったが、この間大学専門学校関係者・児童養護施設関係者との連携を深め、新たな入居者選定に向けてより計画を深化させることができた。改めて地域の一定の協力を取り付けることもでき、今後とも地域への丁寧な説明に心がけると共に地域との連携の中での支援付き住宅としていこうと考えている。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	居場所の不足	1 進捗報告書と同じ	改修・整備する居室数	16戸の改修。整備。	16戸の改修整備を終え、入居可能状態にできた。	近隣からの反対の声があがり、改修工事が少し遅れたが近隣の一定の理解がえられたことで無事完了できた。
子ども・学生	居場所の不足	2 進捗報告書と同じ	入居申込及び入居者数	8戸の入居者。	これから開始する	1が遅れたことで2及び3が今後の課題となったがそれに向けて事業も進んでおり、今後進められていく。
子ども・学生	居場所の不足	3 進捗報告書と同じ	入居者への生活支援、就学支援の数	入居者に応じた生活・就労支援ができていく。	2の進行に応じて進めていく。	〃

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	3月以降に入居募集を順次進めていく。今春に学生寮の管理人を入居者の選考を進め順次決定していく。今年中及び来春に向けて大半の入居者を確定して、順次それぞれに必要な生活支援・就労支援を行っていく。
考察等	3月以降の入居者募集を順次進めていくにあたって、児童養護施設出身者、大学・専門学校生、留学生などのいくつかの働きかけのルートを開拓しており一歩ずつ確実にそのルートへの働きかけを進めてく。合わせてこれを進めていくための「学生寮を応援する会（仮称）」を作り、当会メンバーの他様々な関係者、地域住民、一般市民を含めた組織を作り、地域を巻き込んで、今後の組織的安定的な事業展開を行っていこうと考えている。

V. 活動

活動	進捗	概要
(1)購入契約	ほぼ計画通り	2021年12月
(2)住宅改修	ほぼ計画通り	2022年2月～
(3)入居者募集一面談、聞き取り、	遅延あり	2022年3月～
(4)入居手続—入居開始	遅延あり	2022年3月～
(5)入居後支援	遅延あり	2022年3月～
(6)5割以上の入居完了	遅延あり	2022年3月～

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>近隣への説明など一切していない段階で住宅への改修工事への着手段階で持ち上がり、入居が進めることができなかつたので改めて入居者の募集をこれから始めることとなった。そのため対象を住居確保困難な学生への働きかけを進めるための活動が必要となったが、これまでの準備をふまえて住居確保困難・生活困窮な学生への働きかけを進められていける状態をつくることができた。合わせて近隣の協力体制も作っていただけることとなった。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>入居可能な住宅改修が整備ができ、これから多方面からの入居学生を募っていくことになった。まだ入居学生を支える管理人や相談員の体制も整備していく。住居確保困難な方・一般という対象から住居確保・生活困難な学生と対象が絞られたので、その対象者に応じた、入居募集活動、生活を支える相談支援活動をしっかりと作り上げていく。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	83,700,000	83,700,000	100.0%
	管理的経費			#DIV/0!
合計		83,700,000	83,700,000	100.0%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	無し。 メディア (地元を中心な新聞) にはこの事業の内容を説明してより適切な時に掲載してもらうことになっている。
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	無し。
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	無し。 住宅に掲示すべきであれば行う。
4.報告書等	無し。 今後作成していく計画であり。

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	事業終了後 実施予定
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
<p>2月の事業年度までに入居者はまだ決まっていますが入居できる住宅の整備は完了しました。今後この助成制度の趣旨に則り、住居確保及び生活困難な学生にとって意味のある住宅として十分に活かしていきます。今後はこのような助成があることを望みますが、応募時間がなくて住宅の選択ができなかったことが、思いもかけぬ困難を生じてしまった。もう少し応募計画期間に余裕があることを望みます。</p>